

日本工業大学は設立以来、実験・実習を重視する特色ある教育プログラムで、確かな専門力を有する多くの実践的技術創造人材を社会に輩出してきました。「実工学の学び」にも謳われている、実際の技術に触れることによって学ぶ工学、自ら実践することによって学ぶ工学、というのが本学の伝統です。

「仲間と一緒に『つくる』ことに夢中になれる」・「手を動かしてアイデアを『カタチ』にできる」そんな気風が本学にはあふれています。

専門力と就職力、これらはこれまでも高い評価を受けてきた本学の強みです。現在、これに甘んじることなく、人

新しい知識と技術を 使いこなせるまで学ぶ



学長 成田 健一

間力の育成を主眼とした更なる教育改革を進めています。これからの日本社会は少子高齢化が進み、今までにない色々な課題が生じると思われます。単に高齢者をサポートするという狭い意味ではな

く、将来の日本を支える全ての世代にとつての課題を様々な技術で支援する。それは、一人ひとりに寄り添い、カスタマイズで対応する人間中心の技術。だから、課題を抱えている人の痛みがわかる

「共感力」が必要だ。そんな想いから、学んだ専門力を「社会で活かす」経験をさせる、そのための色々な工夫に取り組んでいます。自分の得意なことでも人を笑顔にできる、そんな社会貢献の体験を通して、皆さんには4年間で大きく成長してもらいたい、そう願っています。

ただ、そのためには、これから始まる「大学での学び」に本気で取り組んでもらうことが必要です。知的好奇心を持って、自ら積極的に学ぶ、それが「大学での学び」の大前提です。楽しく学ぶことは大切ですが、楽な学びというのはありません。最近の学生の皆さんを見ていると「必要

なことだけを効率よく学ぶ」という傾向が強まっている気がします。単位を取るために「試験に出る」ことだけを覚える、そんな学びの姿勢では社会での成功体験にはチャレンジできません。

社会における課題を発見するためには、共感力だけではなく、課題の本質的な背景を理解する幅広い知識も必要です。そして、本心に喜んでもらうためには、失敗を重ねながらも納得いくまでトコトン「やり抜く力」も不可欠です。学んだ知識や技術を社会に役立てられるよう、自ら使いこなせるまで学ぶ、そのことを肝に銘じて「大学での学び」をスタートしてください。